

「あきらめない！」

少しを、次々と、時間内に

「できるを重ねる」

自信

平成31年2月4日  
北九州市立木屋瀬小学校  
校長 瀧上 正彦

### 親子清掃ありがとうございました

親子清掃活動を土曜日授業に設定させていただきました。当初は、6年生の中学校説明会のみでの予定でした。急な提案にもかかわらず、たくさんの方の参加をいただきました。子どもといっしょに奉仕作業する機会はなかなかないと思います。学年末のこの時期、次年度に向かえるようにきれいな環境づくりに取り組んでいただきましたことを心よりお礼申し上げます。また、2月から水曜日に4年生以上は6校時を行うなど校時変更を行います。ご協力をよろしくお願いたします。

### 2月は行事がいっぱい!

#### エアロビック体験1年～3年生 2月中に1回から2回

福岡県エアロビック連盟理事長 中元美由紀さんが木屋瀬小学校に来て、リズムに乗って身体を動かす楽しさや正しい体の動きを教えてください。子どもたちは、ダンスが大好き。表現する楽しさを感じてもらえると良いなと思います。

#### SONY GIGAMO 開発者6年生にキャリア教育8日(金)

ソニー教育財団理科教育推進室長の武藤良久さんが木屋瀬小学校に来て、6年生に自分の少年時代や商品開発時の苦労や子どもたちに期待することなどを話していただきます。また、6年生はSONYが開発した「MESH」というプログラミング教材やタブレットを使って、2年後のプログラミング先取り体験をします。

#### KAGURA 開発者5年生にクリエイター体験15日(金)

しくみデザイン代表中村俊輔さんが、ゲーム作成アプリ「Springin'」を使って、子どもたちにクリエイター体験をさせていただきます。しくみデザインは、世界中で数々の受賞をしている会社です。知財創造教育事業の支援でiPadを一人一台使って行います。

#### 学習参観・懇談会13日(水)

今年度最後の学習参観を行います。子どもたちの一年間の成長の様子をご覧ください。

#### 火おこし体験3年14日(木) 昔遊び体験1年21日(木)

地域のおじいちゃん、おばあちゃんに来ていただいて、炭火の火おこしや、けん玉やお手玉など昔の遊びを教えてください。寒い中、お世話になります。

#### インフルエンザ大流行

すでに、本校でも2学級の学級閉鎖が出ています。休み明けの月曜日に急に欠席者が増えます。習い事や外出でうつらないようにご配慮をお願いします。マスクはウィルスを通すので安心はできません。手洗い前に口や手を触らないこと、こまめな水分補給をすることを心がけてください。

#### 5年生補充学習2月から毎日

4月の学力状況調査をひとつの目標にして、5年生は3学期いっぱい補充学習を始めました。高校入試も基礎問題から読解力と思考力を必要とする問題に移行を始めています。小学校段階で「できる」という自信をもって取り組む力をつけさせたいと思います。

### シリーズ

子育て応援

### ～校長の独り言～

#### 孤独を怖れない力

青春出版社 工藤公康著より

ホークスの工藤監督は、現役投手を47歳まで続けました。どうしてそんなことができたのでしょうか?もちろんもって生まれた才能だけではありません。驚くほど孤独を怖れず、とことんまで自分と向き合うストイックさ、そして彼を追い込んでくれた人との出会いにあります。

工藤選手は26歳でトレーニングを怠り、肝臓を壊し、「もう終わった」と言われました。そのとき出会ったのが筑波大 白木仁先生。「人間の肉体が25歳で終わるなんて嘘。まだまだ鍛え方が甘い。あなたはもっと強くなる」その出会いと厳しい練習が工藤選手のターニングポイントでした。

#### 自分の伸びしろは、孤独の中に隠れている…。

試合中、内野手がマウンドのピッチャーに近寄り声を掛けるシーンがありますが、どんな言葉を掛けているのでしょうか?

ピッチャーを気遣うような言葉をかけていると思うかもしれませんが、工藤選手が西武ライオンズで投げていた頃は、「おい、ストライク投げろよ」「お前の背中には覇気がないぞ」と叱咤激励の厳しい言葉が多かったそうです。

まして、負けた試合の後には、「次頑張れよ」「気にするな」なんて励ましの声はありません。自分に足りなかったのは何なのか、何が弱さなのか。悪い結果に目をそむけず、自分ときちんと向き合って、どうすべきか考えるしかないのです。

一方で弱い自分と向き合わず、良い結果だけを記憶に残そうとする選手は、ポジティブの解釈を間違えており、同じ失敗を繰り返すことになります。孤独に向き合うとは、自分の悪い結果の原因を考える作業でもあるのです。

さて、工藤選手は、一流選手には共通する「学び方」があると言います。同じように才能がありながら、一軍に行ける選手と二軍から上がれない選手の違いは、「考え方」だと。

一流の人とは、モノの見方や考え方、やり方、思いの強さが柔軟かつ強靱。それに加えて、謙虚さも持ち合わせている。二流の人とは、1つの見方、考え方、やり方しかできず、思いが弱くて、他人にどうにかしてもらおうとする。すぐに自信を持つが、なくしてしまうのも早い。

そして、そんなストイックな工藤監督が、若い選手を伸ばすときにこんな問いかけをするそうです。

「みんなは、学生時代どんな練習やトレーニングをしたときに自分の実力が伸びたのか覚えてる?」

人から教え込まれるのではなく、孤独に考え抜いた末に自分で気付いた選手の方がはるかに伸びます。

もっと自分を伸ばしたい、と思わせること。そのための方法や選択肢を与えると伸びていく。それが若い力です。

「自分で気付かせる問いかけ方」工夫してみませんか?